

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業改善によるわかる授業の創造	校内研究授業/協同学習の研究推進/小中連携/読書習慣の定着	アンケート「学校の授業はわかりやすいか」/学習確認プログラムの結果
	家庭学習の習慣化	ゲーム・テレビ・ネット・メール等の時間制限の検討/ふりかえりの定着/宿題の提出	アンケート「宿題はできている・家庭学習には毎日取り組んでいる」
	授業規範の確立	遅刻・ベル着違反ゼロへの取組/校内巡視体制の継続/授業の規律10箇条の徹底	ベル着や授業改善への取組結果/アンケート「学校のルール守っている」
豊かな心	いじめが起きない学級集団づくり	学級経営力向上/ク라마ネの活用/梅津の志徹底/いじめ防止基本方針の周知	アンケート「いじめはいけない・悪いことは悪いといえる」
	「いいことばの日」への理解と定着	毎月15日の生徒会の呼びかけとそれに呼応する担任の働きかけ	終学活の振り返り/アンケート「友達は優しい言葉をかけ助けてくれる」
	道徳教育の充実	学年道徳・交流道徳・全校道徳の実施と振り返り/他校研発への参加	道徳学習シートの点検/アンケート「自分にはいいところがある」
健やかな体	基本的生活習慣の確立	ゲーム・テレビ・ネット・メール等の時間制限の検討/遅刻・ベル着についての取組	就寝時間・家庭での生活習慣についての調査
	体力・運動能力の向上	食通信の充実/体育授業の充実/部活指導の充実と支援体制づくり	体育授業の評価/部活に関するアンケート/朝食アンケート/部活動の様子
独自の項目	小中一貫教育の推進	小中合同研究授業・研究協議会/小中3校教職員の親睦	小中合同研修会後の職員アンケート・学習確認プログラム
	愛校心の育成	集会の工夫/梅津の志の唱和/校歌を歌う/地域への発信	アンケート「梅津中を誇りに思う・他の学校とは違う特色がある」
	情報発信の充実	積極的なホームページの活用/ホーム・ページの活用/学級・学校だより発行	学校ホームページのアクセス数・学校評価保護者アンケート



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月17日
	評価者・組織	運営委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「学校の授業は楽しくわかりやすい」が昨年度比3ポイント増。 全く家庭学習をしない生徒は平日で全国の2倍、休日で3倍の傾向は変わりない。 「学校のルールや約束を守っている」が昨年度比3.3ポイント増。	授業改善の成果が現れてきたとも言える。ただし、保護者からの評価は下落。 家庭への働きかけは、効果が薄い。保護者に頼らず生徒自身を変える必要あり。 エスケープ・ベル着違反激減。さらに魅力があり、わかる授業で生徒を惹きつけている。	今年度始めた当初の「授業の目的・意義」についての全校集会の継続。 年度途中から設置した、自主勉コーナーの充実と自主勉ノート活用の全学年展開。 現状におごることなく、これまでの規範意識定着に向けた取組を進めていく。
「安心して登校できている」が昨年度比0.3ポイント増。そう思わない生徒は減少。 地域の各種団体への周知が進み、多くの会合で話題として頂いている。 全校道徳にて、フリーの意見交換が、真面目で前向きに行えるようになった。	生徒会の取組や、学級経営が一定の成果が現れている。 地生連の協力が大きな力となっている。小中合同の取組への評価も高い。 道徳授業の公開や研究・研修が進み、生徒の心も良く育っているのではないかと感じる。	ク라마ネの更なる活用と、日頃の生徒観察、安全安心菜学校づくりに更に邁進。 小中合同の取組から、梅津地域全体の取組となるように進化させる。 教科化を見据え、評価の出し方と、評価を活かした授業づくりの研究が必要。
朝食を食べない生徒、寝る時間が遅く、不規則な生徒が多い状態が続く。 部活動への満足度が向上。白熱した体育大会や部活結果から満足できている生徒は多い。 小中合同研修会・研究授業において盛んな意見交換が行われ、充実感がわかる。	ビデオ・ゲーム・ネット・メールなどに使われる時間が、圧倒的に多い状況のままである。 体育授業でのケガが減らず、運動能力に課題のある生徒はいる。 小中教員間の垣根は取り払われ、相互理解も進んだと言える。	ビデオ・ゲーム・ネット・メールなどに使う時間の制限を、学校から提案する必要がある。 運動の楽しさや、自身の健康への興味関心を持たせる工夫が必要。 「梅津中に誇りに思える」が0.6ポイント減。 意外な結果で、様々な取組が教員の自己満足になっていないか、検証が必要。
保護者からの評価は減だが、生徒からの評価は増。	保護者の要望に応え、さらに充実させる必要がある。	生徒の評価に満足せず、行事計画や報告等を早く正確に細かく伝える。



学校関係者評価	
評価日	平成29年3月22日
評価者 (いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
生徒アンケートの結果については、大変評価できる。	小中連携した取組の更なる進化を望む。
学校の自主勉強推進への取組は評価できる。	保護者・地域への啓発活動についての協力。
エスケープ・ベル着違反が減ったことは評価できる。	わかりやすく楽しい、魅力ある授業づくりに邁進して欲しい。
生徒アンケートの結果は評価できる。	危機意識を忘れない。落ち着いたときこそ、原点に戻ってほしい。
生徒の状態が非常に良くなり、あいさつもできるようになってきたと感じる。	地域での協力を更に進める。
地域での生活の様子から、道徳心が養われていると感じる。	教科化に向けた研究・研修を進めて欲しい。
学校が感じる危機意識について理解できる。	学校の方針に賛同できるので、学校運営協議会名を使ってもらって良い。
体育大会の様子や部活の様子から。向上を感じられる。	自治会の運動会や体育的行事にも中学生の参加を、更に促す。
幼稚園・保育園との連携も必要に思う。	幼・保だけでなく介護施設・児童等との必要な連携に協力をする。
生徒アンケートの結果は評価できる。	梅津地域の教育の中心として、必要な支援を行う。
より地域に開かれた学校づくりを臨む。	年度始め、学校運営協議会理事と教職員の顔合わせが必要。顔を合わせた上での打ち合わせをしたい。

3 総括・次年度の課題

○保護者アンケートと生徒アンケートの回収方法の違いが、結果を左右しているのではないかと。保護者アンケートもBOXでの自主回収ではなく、担任の先生で回収した方が正確ではないかと。(保護者アンケート回収率は1/4程度)
○一見落ち着いたように見えるが、荒れていた頃を忘れ、危機意識が薄れるといけな。今こそ一人一人をよく見て、弱い立場の生徒や何も言わない生徒への、働きかけを強め、攻めて行くことで、全体のレベルアップを目指す必要がある。
○更なる授業改善・工夫を進め、誰にとっても楽しくわかりやすい魅力ある授業を展開することで、学習に対する興味・関心を高め、授業規範や学校の安全・安心を追求していく必要がある。